

# CSR活動ハイライト



(右上) 静岡県伊東市立富戸小学校  
(左・右下) 栃木県那須烏山市 あすなる作業所

## ステークホルダーの皆さまとともに アルミ缶リサイクル活動を例に

### 40年以上続くリサイクル活動

昭和電工グループのアルミ缶回収活動のスタートは、旧・昭和アルミニウム(株)(SAK)が1972年に従業員へ行ったりリサイクルの呼びかけまでさかのぼります。その後、1981年にSAKの小山(栃木県)・堺(大阪府)2事業場に、周辺地域の方々から直接アルミ缶を買い取る窓口を開設、1990年にはその規模を本社と全事業場に広げました。1995年には(株)昭和アルミ缶リサイクリングセンターを設立し、アルミ缶のリサイクルを事業化して活動を続けています。2001年にはSAKと昭和電工(株)の合併を機に、当社グループ全体での活動に広がり、2013年には3R推進功労者等表彰で経済産業大臣賞を受賞しました。

### ▶当社グループのリサイクルの歴史

年	できごと
1971年	昭和アルミニウム(株)が日本で初めてアルミ製ビール缶を製造
1972年	SAKが従業員へアルミ缶のリサイクルを呼びかける
1973年	昭和アルミニウム(株)・初代社長の主導で業界団体・オールアルミニウム缶回収協会(現在のアルミ缶リサイクル協会)が発足
1981年	SAKの堺・小山の2事業場で、近隣ボランティアから使用済みアルミ缶の回収活動をスタート
1990年	SAKで全社的なアルミ缶リサイクル活動をスタート
1995年	(株)昭和アルミ缶リサイクリングセンターを設立。“CAN to CAN”体制が整う
2001年	SAKと昭和電工(株)の合併を機に、旧・昭和電工(株)の事業所・グループ会社にもアルミ缶リサイクル活動を拡大
2013年	3R推進功労者等表彰で経済産業大臣賞を受賞

### アルミ缶 リサイクルの メリット

アルミ缶のリサイクルを  
することには、  
次のようなメリットが  
あります。

#### 1 エネルギーを 節約できる

回収されたアルミ缶から再生地金をつくると、新しくボーキサイトから地金をつくるのに比べて97%のエネルギーが節約できます。リサイクルにより節約されるエネルギー量は、日本全国の家庭で使われる電力量の約15日分に相当します。

#### 2 ゴミが減る

リサイクルにより約7割のアルミ缶が再度アルミ缶に生まれ変わっています。

#### 3 資源を 大切にできる

アルミの原料であるボーキササイトの使用量を減らせます。

## アルミ缶からアルミ缶を生み出す“CAN to CAN”体制

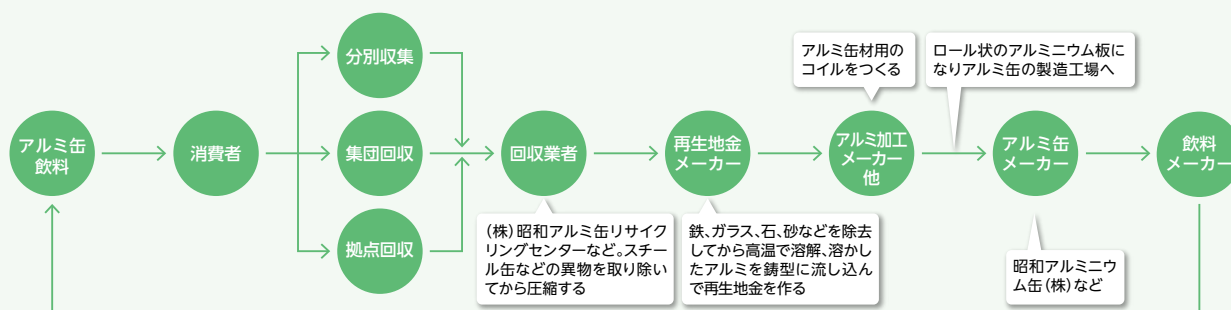
現在、(株)昭和アルミ缶リサイクルセンターは、小山、彦根(滋賀県)に出張所を置き、アルミ缶の回収・選別・プレスを行っています。これらのアルミ缶は溶解・鋳造・圧延工程を経て、昭和アルミニウム缶(株)で再びアルミ缶へと生まれ変わります。ちなみにアルミ缶からアルミ缶になることは“CAN to

CAN”と呼ばれています。

アルミ缶リサイクル活動は、当社グループならではのCSR活動として定着しています。引き続き社員への広報・啓発活動や、協力企業など外部団体への回収協力依頼などにも取り組み、回収量の維持・向上を図っていきます。

### アルミ缶リサイクルの流れ

単一素材なのでリサイクルしやすいという利点があります。



### Stakeholder's VOICE

#### アルミ缶リサイクル協会

専務理事 森口 夏樹様



日本の飲料用アルミ缶は、1971年に生産開始されましたが、回収ルートはありませんでした。しかし、アルミ缶はゴミではなく貴重な資源であるという認識の下、昭和アルミニウム缶(株)初代社長が中心となって、1973年にアルミ缶リサイクルの団体を立ち上げたことが、当協会の始まりです。

アルミ缶リサイクルの目的は、省資源、エネルギー節約です。調査を始めた1977年には、わずか17.2%の回収率だった当活動も、さまざまな普及活動により、2000年には80%、2005年には90%のリサイクル率を達成することができました。多くの方がリサイクル活動に参加して

いるのは、アルミ缶が有価物として取引され、それぞれの団体の活動費用となることや、ゴミの削減・資源の有効利用につながっていることが認知されているからだと思います。

当協会は、今後もより多くの人にリサイクル活動に参加してもらえよう、支援をしていきます。

昭和電工グループの活動に対しては、昭和電工グループでアルミ缶を生産していることや、リサイクル活動をしているということを知らない人も多いのではないかと思いますので、さらなるPRに取り組むことを期待しています。

### 活動参加社員コメント

昭和電工(株)大阪支店はオフィス街にある上、全員が電車通勤しています。そのような環境の中で、何ができるのかを担当者で知恵を出し合ってきました。例えば、オフィスにある自販機内にアルミ缶製品を多く入れてもらったり、定期的に支店内で情報交換会を開催し、その際に飲んだアルミ缶もカウントするなどの取り組みで、参加率・回収量の増加を図っています。

(昭和電工(株)総務・人事部 大阪支店)

昭和電工アルミ販売(株)では、毎月、社内のアルミ缶リサイクル推進事務局から社員全員へ参加を促すメールを送ったり、近隣の企業などにも活動への理解・協力を依頼するなどの取り組みを進めてきました。その結果、参加率・回収缶数のアップにつなげることができました。今後も、全社員一体となりリサイクル活動にまい進していきます。

(昭和電工アルミ販売(株)企画管理部)

# CSR活動ハイライト

## 環境

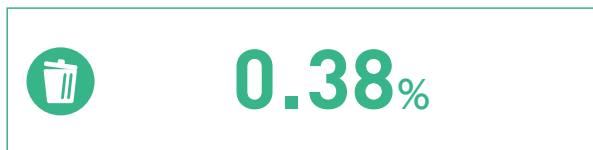
→詳しくはP.52～55へ

昭和電工グループは、地球温暖化防止や資源保護の観点から、温室効果ガスの削減や省エネルギー施策を推進しています。また、大気・水質・土壌汚染防止のために、燃料転換や製造プロセスの改善などを通じて、化学物質の排出量削減に取り組むほか、廃棄物発生量の抑制、再使用、有効利用などの取り組みを進め、ゼロエミッション（最終埋立処分量が発生量の1%以下）の達成を継続しています。

### ▶ 温室効果ガス排出量(2017年度 昭和電工グループ)



### ▶ 産業廃棄物最終埋立処分率(2017年度 昭和電工グループ)



## TOPIC

### 栃木県よりマロニエECO事業所最優秀賞を受賞

昭和電工(株)小山事業所は、高効率機器および省エネ設備の導入と地域と連携した社会貢献活動への取り組みを行っている事業所として、栃木県よりマロニエECO事業所表彰\*の最優秀賞を受賞しました。今後も、環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。

\*マロニエECO事業所表彰  
マロニエECO事業所表彰は、エコキーパー認定事業所の中で、環境保全に優れた取り組みを行っている栃木県内の事業所を表彰するものです。



表彰式にて(2018年2月)

## 社会

→詳しくはP.62～65へ

昭和電工グループは、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築に努めています。例えば、私たちの技術や人材、設備を活用した地域社会への貢献活動として、特に次世代を担う子どもたちへ向けた化学実験教室や工場見学会などを積極的に行っています。

またダイバーシティの取り組みも進めており、当社グループで働く全ての人材が、多様な価値観を尊重し、いきいきと活躍できる職場環境の構築を目指しています。

### ▶ 障がい者雇用率の推移(2017年度 昭和電工単体)



### ▶ 女性管理職数・管理職に占める女性の比率(2017年度 昭和電工単体)



## TOPIC

### 出前授業

昭和電工グループでは、各事業場で出前授業、実験教室、インターンシップの受け入れなどを行っています。

昭和電工(株)秩父事業所では、2017年11月に市内の小学校を訪問し、3年生を対象に出前授業を行いました。

昭和電工の紹介や秩父事業所で生産されている製品の紹介に加え、当社の製品が生活の中でどのように使われているかなどをわかりやすく説明しました。その後、秩父事業所の製品を使った実験を行いました。



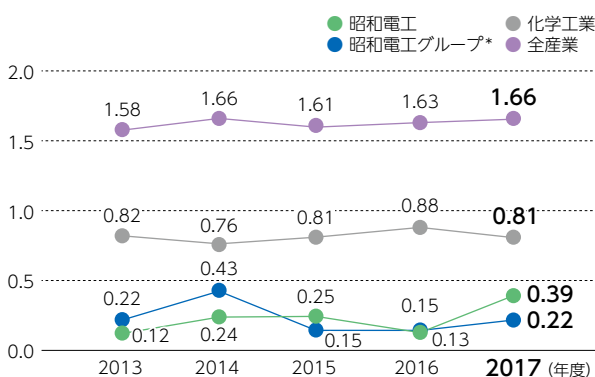
授業の様子(2017年11月 昭和電工(株)秩父事業所)

## 安全

→詳しくはP.56～57へ

化学企業である昭和電工グループにとって、安全は全てに優先して取り組む事項であり、「創る安全」活動を継続し、労働災害、設備事故、環境トラブルの未然防止に努めています。

## ▶従業員休業災害度数率の推移



\* グループ会社範囲(2017年12月現在)

鶴崎共同動力、昭和電工セラミックス、信州昭和、昭和電工パッケージング、昭和アルミニウム缶、昭和電工堺アルミ、昭和電工エレクトロニクス、ユニオン昭和、新潟昭和、昭和アルミ缶リサイクルセンター、ハイパック、昭和電工ガスプロダクツ、クリーンエス昭和、日本ポリテック、昭和電工研装、昭和ファインセラミックス、昭和電工HD山形、芙蓉パーライト、サンアロマーの各事業場

## TOPIC

## 日本化学工業協会より安全優秀賞を受賞

昭和電工エレクトロニクス(株)は、優れた労働安全成績について評価され、第41回日化協安全表彰 安全優秀賞を受賞しました。

安全優秀賞は、化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、優れた活動を実施し模範となる事業場を表彰する賞です。多数の応募事業場の中から書類審査により選考された後、現地調査や有識者による安全表彰会議での審議の結果、選定されます。



表彰式にて

## CSR調達

→詳しくはP.60～61へ

昭和電工のCSR調達は、「昭和電工グループCSR調達ガイドライン」(<http://www.sdk.co.jp/about/purchase/csr.html>)を調達先(パートナー)の皆さまと共有し、その遵守を求めることで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。ガイドラインは、当社がパートナーに求めるCSRの取り組みを具体化したもので、当社はその遵守状況の確認のため、「自己診断」、「CSR訪問」、「フォローアップ」の3つの活動を行っています。

## 品質保証

→詳しくはP.58～59へ

昭和電工グループは、「社会的に有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスをご提供」します。そのために設計・開発から上市、製造、販売、市販後に至る製品サイクルにおいて、化学品の安全性の確認だけでなく、お客さまがどのように使用されるか、どのように廃棄されるかなど、製品に関係するさまざまな項目を考慮してリスクを抽出しています。そして、それらを低減させるというリスクベースの考え方にに基づき、お客さまが安心して当社製品をお使いいただく「製品安全」を確保するための活動を、組織的、体系的に実施しています。

▶クレーム件数の年別推移(2015年を100とした指数)  
(昭和電工基準による)